

名古屋市の業務概要

— 差別と区別という認識の中で —

学ぶことは容易なことではない。つかうことはいっそう容易なことではない

1972年、会社設立後、5年後の1977年に最初の仕事として、守山社教センターと千種社教センターの設備設計を受注した。1979年には原小学校新築の設備設計に従事していた。1983年は、初めてのコンサルティング業務として、「中央卸売市場北部市場設備改造調査」が委託され、その後の3年を経て、1986年には「北部市場設備更新及び改良のための調査」が委託された。

それ以来、50年間を通じて、名古屋市からは新築建物の設備設計と、既施設の設備改造設計を受託し、コンサルティング業務としては、企画、調査、検証等を委託されてきた。設計業務は、時代の流れの中で、名古屋市側の意図もあり、時に応じて特徴があった。学校建設の設備設計は1979年の原小学校を始めにして、2009年の志段味小分校まで、平均的に5校受注したが、1990から2012年にかけては、小・中学校、工業高校の大規模改造が主体になり、2013年以降は、小・中学校の教室空調の業務となっている。方面別という名前で建設が予定された、スポーツセンターでは、1986年の稲永方面別をはじめとして、1998年迄の12年間に、北、中村、名東、中、昭和、の6スポーツセンター施設を、プロポーザル方式で選ばれて設備設計を受注した。更に特別養護老人ホームなごやかハウス丸池もプロポーザルにて受注した。

1996年からは地下鉄線路の拡大に伴って、地下鉄駅の設計では、大幸車庫をはじめとして、本山、名古屋大学、八事、八事日赤、鳴子北、相生山、神沢、徳重、の各駅と徳重車庫と2008年までの設計業務を委託された。コンサルティング業務で注目されるものとして、1988年、世界デザイン博覧会メイン会場として建設されたのに伴い委託された、「白鳥センチュリープラザ管理マニュアル作成」と、環境問題に特化したものとして、1998年から1999年に2年間を通して名古屋市のチームに参加して作業を行い完成した、「環境配慮型公共建築物整備指針作成」は、地球温暖化対策の解決のための行動指針として参考にすべきものである。



稲永スポーツセンター



名東スポーツセンター